

メタセコイア (土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞

～ 夢に向かって ～

第3号

令和 8年 5月 29日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『心痛』

校長 小熊 誠

保護者・地域の皆様、暑くなって参りました。どうぞお体には十分御留意ください。そんな中でも生徒たちの放つ輝きはますます磨きがかかってきています。

まず、剣道部の1.2年女子5人が、学校帰りに家の前で倒れていた方に気付き、近づき、声をかけ、教職員や救急車を呼び命を助けるという勇気ある立派な行動をとってくれました。素晴らしい行いです。生徒たちの心が進化している証です。

5月14日～16日、3年生が修学旅行に行つて参りました。朝4時半の集合、誰もいない東京駅、京都では「葵祭」でバスや信号も止まるという貴重な体験の中、生徒たちは、スローガン通り、「京都(今日)いう日を、奈良つて(習つて)笑つて」思いつき楽しんでできました。実行委員を中心とした素晴らしい活動でした。きっと皆様へも満面の笑顔の御土産話があったことと思います。生徒たちがまた一つ前に進みました。

5月19日には、大きな青空の下、地域の皆様の協力を得て、全校挙げての総合学習の一環として2年生が「田植え」に挑みました。始めて体験するヌルツとした泥の感覚、足を捕られ泥んこになりながら、悲鳴とも歓声ともとれる声を発し、一心に苗を植えている姿。「米づくりがこんなに大変なことが分かりました。農家の方々に感謝します。」「自分たちで植えたお米を食べるのが楽しみです。」との声。22日からは、生徒たちによる日々の観察も始まりました。本年度の土屋の目玉の一つ「米づくり」。生徒たちが何を感じ、何を考え、何をしていくのか、土屋の探究的学習、どこまで行くのか、皆様どうぞ御期待ください。

そんな生徒たちの輝きが増す一方、5月～6月は、心が悲鳴を上げやすい時期とも言われています。そこで、さいたま市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と定め、市をあげて生徒たちの心のケアにあたっています。土屋でも、「いじめ見逃しゼロ」を掲げ、心染色“こんぱす”を中心に、学級毎に学級討議を行い、スローガンを決定したり、道徳で話し合ったり、SNSのルールを作成したり等、皆がもっと土屋を大好きなるよう土屋の全てを自分事として捉え、主役として主権者として、「生徒の 生徒による 生徒のための学校創り」に邁進しています。その一環として6月8日の朝礼では、私から『心痛』という話をしたいと思ひます。この話は、昨年と同じ時期に話しましたし、きっと来年も話すと思ひます。それほど私は大事なことだと思ひています。『心痛』とは、骨折等のように目に見える痛みではなく、目に見えない「心の痛み」です。「心の痛み」

『心痛』は、誰にも気づかれることなく、場合によっては自分自身でも気づくことができず、知らないうちに深く進行していきます。この『心痛』を防ぎ、抜け出す方法は、自分でSOSを出す勇気と、小さな変化にも気が付けてくれる仲間や、信頼できる大人の存在です。私は、生徒たちには、自分のそして仲間の「心の痛み」の分かる人であつて欲しいと願っています。それが、私の教育の根幹にあると考えています。そして、信頼できる大人とは、私たち教職員はもとより、保護者・地域の皆様です。私たちも生徒たちに信頼される大人、すなわち生徒たちを守る「絶対の守護神」となれるよう努力していきましょう。



希望の登校 笑顔の活動 満足の下校